

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

昨日は、二十四節気では「穀雨」の時期。穀雨は、雨が降って百穀を潤す「百穀春雨」の意味の言葉に由来する。「野菜の種まきは、

桜が咲いた時期から」と母から学んだが、桜の開花と穀雨の時期は、種まきに最適だと感じている。この時期の雨は、降ったと思っただけで止み、またすぐ降り出すことから「春時雨(はるしぐれ)」と言われ満開の桜には辛い雨だが、木々の新芽には恵みの雨となり自然の営みを感じてしまう。

4月は新社会人誕生で、希望を胸に秘めながらも、少しばかりの不安を抱く時期だ。高度成長期の頃は、上司から「背中を見て学べ」とか「おひたし」「お(おこらない)・ひ(否定)しない

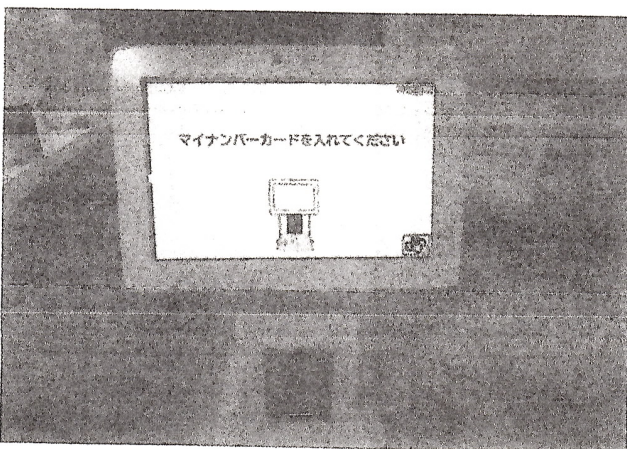
解する「二を聞いて十を知る」などの教えを受けた。だが少子化で人材不足の職場が多い中で、逆に上司が部下に対するビジネスコミニケーション(仕事上において、言語・文字・身振りなどで、お互い

い)・た(助ける)・し(指示する)の要素能力が上司に求められている。総務省が昨年10月時点の人口推計を公表した。日本人は過去最大の1年間に75万人の減。男女平等の職場を

事業を残すのは中、人を残すを「上とす」と言っている。またプロ野球で多くの人材を育てた野村克也さんも座右の銘にしていた事で知る人も多いはずだ。人口減少社会の中で、人材育成がいかに重要か改めて考えさせられる。

物価高騰や異常気象、核戦争勃発が危惧される社会情勢の影響もあり、わが家でも缶詰やレトルト食品など多めに買い置きするようになってきた。ただ食品の管理を怠ると賞味期限が終わる食品もあり、思わず苦笑いすることもある。買い置きした食品を使いながら買い足す災害向け備蓄を「ローリングストック」と言われていることを初めて知った。非常時に集中的に食料を求める事例は軽減できる。災害大国の日本は更に備蓄に関心を持つべきだろう。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)

人を育てる意識が求められている



初めて医療機関でマイナカードでの受け付け、操作は簡単だった。